

『刑事ファビアン・リスク 九つ目の墓』ステファン・アーンヘム 著 堤朝子 訳

北欧ミステリーの変化球！ エグくて痛くて最強にいけない、怒濤の650頁に刮目せよ！！

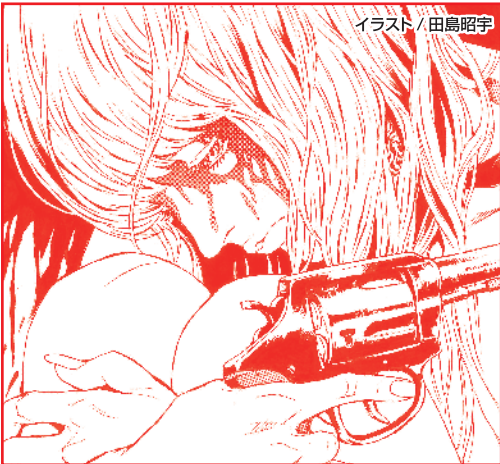
2014年にデビューした中でもっとも売れた作家！ 最優秀新人賞クライム・タイム賞受賞！

人口990万人のスウェーデンで75人に1人が震撼（13万部突破）！

あのノルディスクフィルムが（まだ書いていない）シリーズ4作目までまとめて映像化権取得!!!

と、シリーズ第1弾の『刑事ファビアン・リスク 顔のない男』で北欧ミステリシーンに殴りこみをかけた著者ステファン・アーンヘム。その勢いはますますパワーアップし、第2弾となる本作では事件・容疑者・捜査陣・謎すべてにおいて、よりトリッキーな仕掛けが用意されている。なんといってもスウェーデンとデンマークで同時期に2人の猟奇殺人犯が活動しはじめるって、んなバカな!? 現場レベルではわずかな交流があれど、相変わらず2国間のフシギな関係によって捜査協力とはいかず、犯人の思うツボに……とネタバレ回避のため詳しくは本編をお読みいただくとして、『顔のない男』の前日譚となる本作では、ファビアンがいったい何をやらせてストックホルムのエリート刑事から故郷の警察署に異動してきたのか、その真相が明らかになります。けっこうショックです。著者ステファンのいけずさ、エピローグの先にあるシリーズ第3弾の予告編のような1章でもなんとなく感じられたり。ますます目が離せないシリーズ、未読の方は本書と前作、どちらから読んでも大丈夫。ぜひ今夏、ステファン・ワールドを体験してみてください。（担当編集 O）

『殺人遺伝子 リ:バース』ソフィー・ジョーダン 著 藤峰みちか 訳



イラスト/田島昭宇

殺人遺伝子を持っているがゆえに、収容所に囚われたデイビーは、仲間とメキシコへの脱出を図ったが、川を渡る際に撃たれて取り残されてしまう。傷つき、川辺で這いずっているところを、レジスタンスの青年ケイデンに救出され、地下組織に匿われるのだった。ケイデンに惹かれながらも、かつての仲間との合流を強く願うデイビー。そんな彼女を愛しく想うケイデン。遂に彼女が自由になる日が来た。だが、メキシコへの移動中、デイビーが目を見た際に、十人いた亡命者は全員射殺されてしまう。しかも、ただ一人生き残ってしまったデイビーこそが裏切りの張本人だと疑われ始め——悪夢のような狂気の世界の行き着く先は？

加速する被虐サスペンススリラー

『ドリーム NASAを支えた名もなき計算手たち』マーゴット・リー・シェタリー 著 山北めぐみ 訳

人類を月へと導いた、「黒人女性計算手」たち——
アメリカでさえほとんど知られていなかった、感動実話。

人類初の月面着陸をテレビ中継で見ていない世代でも、アポロ11号の映像や、映画『アポロ13』は観たことがあるだろう。宇宙飛行士が無事に生還し、拍手と歓声に包まれるミッションコントロールセンターの感動的な光景も見覚えがあるだろう。そこには、当然のように白人男性しかいない。だが実は、テレビ画面に映っていないところで、多くの黒人や女性がNASAで活躍していた。アメリカで公民権法が制定されるのは1964年。その20年以上前、数学教師ドロシー・ウォーンは「黒人女性計算手」としてNASAの前身組織に雇われる。四角い箱のコンピューターが誕生する前、複雑な計算は人の手によって行われ、彼らは計算手（コンピューター）と呼ばれて活躍していた。日の当たらない存在ではあったが、彼らの支えによりマーキュリー計画は成功を収め、アポロ計画の扉を開いたのだ。著者シェタリーはNASAの気象科学者の娘として生まれ、膨大なインタビューを重ねて本書を書きあげた。差別を乗り越え、道を切り拓く人々の姿は、強く胸に迫る。歴史の片隅に埋もれた人々に光をあてた名作。老若男女問わず、ぜひ多くの方に薦めたい。（担当編集 N）